

特集 職業奉仕月間

考えよう 語り合おう 実践しよう
職業奉仕

VOCATIONAL SERVICE

I Serve の究極にあるもの 職業奉仕

第 2630 地区パストガバナー 服部 芳樹 (岐阜 R C)

初めに

「ロータリーは、単なるボランティア団体ではない。寄付団体でもない。慈善団体でもなければ、社交団体でもない。ロータリーには、職業奉仕という看板がある。職業奉仕はロータリーがロータリーである所以の奉仕であり、他の奉仕団体との違いはここにある」

……と言われて、それならば職業奉仕とは？ と尋ねられると「さて？」となってしまうのが現実ではないでしょうか。また、日本の職業奉仕論と、現今の国際ロータリー (R I) の提示する「職業奉仕」とは遊離しているかのように言われています。現在の若い新会員にも理解され、R I の提示するところとの整合性は得られないものでしょうか。

[1] 四つの登山道

では職業奉仕がなぜ、そんなに「鶴のように、えたいの知れぬわからないもの」になってしまったのでしょうか。現在職業奉仕を解く論説を大きく分類すると、四種に分けることができます。しかもそれは、一つの山に四つの登山道があって、「登りつめた頂上は同じ」ならよいのですが、それぞれ異なる四つの峰の頂に達してしまうので、どの途をたどるかが混乱の元となっているようです。もっとも頂の高さは同じで、どの途を選ぶかは各々の信じるところでしょうが。

四つの登山道は、次のように考えられます。

- 1 道徳律、悟りの境地を求めて。
- 2 職業宣言、倫理運動として。
- 3 東洋思想に演繹して。
- 4 シェルドンの職業繁栄理論を基礎に。

1 神聖化された悟りの境地

「職業奉仕は難しい、語るも行うも難しい」。1970 年代のことです。私が入会したころ先輩が言いました。そして聴かされたのは高邁にして迂遠なる理論。滔々と語られる天上の哲学……。原典は、1915 年サンフランシスコ国際大会で採択された「全分野の職業人を対象とするロータリーの倫理訓」と称する 11 か条の道徳律でした。

その要旨に、この倫理訓の目的として曰く、「この倫理訓は、愛を述べたものである。他人を滅ぼすよりはむ

しろ、他人に滅ぼされんことを選ぶ。この倫理訓は、愛に基づいて作られている……」。また当時強調された言葉に、「職業奉仕とは神に物を売ることなり」がありました。神の御心に適うように励めという「天職論」も、盛んに講話の中に出てきた言葉でした。確かに職業奉仕の原語は、『手続要覧』に Vocational Service と書かれています。このような思想に鍛えられたリーダーから聞く「職業奉仕論」は、どれも立派すぎて、職業奉仕の講話を聴いていると、悟りを啓くために座禅を組んでいるような心境になり、職業奉仕月間の例会には、食事に「霞」がでるのではないかと思っただけでした。

2 職業宣言を柱に解説

「職業奉仕・四つの反省」前原勝樹パストガバナー (P G) 1972 年、「職業奉仕に関する声明」1987 年 (2014 年の国際ロータリー理事会で改定。『ロータリー章典』8.030.1. 改定後の公式の日本語訳はありません)、「ロータリアンの職業宣言」1989 年 (2011 年の国際ロータリー理事会で「ロータリーの行動規範」に変更。2014 年の同理事会で改定。日本語訳は横組み P11)、これらが中心になった論説があります。高い倫理基準が求められ、世に有益な職業に貴賤なきことの認識を持ち、自己の職業を高潔なものとする。顧客・従業員・同業者・納入業者に等しく公正に……などが述べられています。

ロータリーは倫理運動であり、そのなかで「愛情の世界に生きる心をもって職業を営むべし」。この言葉に象徴される、深川純一 P G の立派な論説は著名です。

職業奉仕の戒律ではさらに厳しく、「ロータリアン同士は職業上の関係で、便宜や特典を図ってはならない」と書かれていたり、先輩から「ロータリーの席で商売の話は禁句と心得よ」と説き聞かされるにおよび、ロータリアンは最も親密な友人、ではなかったのでしょうか。大切な友としての処遇は、許されないのでしょうか。職業上の互恵組織から出発したロータリーなのに、なぜ商売に触れてはいけないのでしょうか。異業種交流や、共存共栄切磋琢磨など、ロータリーには相反する思想なのでしょう。職業と無関係の会合であるべきなら、毎週昼飯のために「仕事を休んで出かける」理由を、従業員にどう言って納得させるのでしょうか。例会は、後ろめたい気持ちで出かけるものなのでしょうか。

……ということが釈然とせず、不思議でした。

3 東洋思想に演繹して

東洋思想の「善因善果悪因悪果」論、二宮尊徳の「報徳教」、伝教大師最澄「道心の中に衣食あり」、近江商人の「三方良し」……など、職業奉仕と同じ理念と説かれています（安平和彦 P G）。日本人には大変わかりやすい説明です。天職論などとは真逆の因果応報の思想が、何の抵抗もなく職業奉仕理念のなかで融合してしまうのは不思議です。

しかし職業奉仕が、自己犠牲の奉仕、滅私奉公、没我の奉仕を至上のものとする考えに律せられるときには、西欧文明が「個」の理性的な追求を土台に発展しているのに比べ、日本的「個」のありかたは「人と人との間にある」といった捉え方をしていることに違和感を憶えざるを得ません。I serve の I や、Service Above Self の解釈が混乱する原因でしょうか。

4 シェルドンの職業奉仕

1910年、1911年および1913年、国際ロータリークラブ連合会全国大会で発表されたアーサー F. シェルドン (Arthur Frederick Sheldon) の講演原稿などが、2000～02年に田中毅 P G によって発見され、最古にして最新の職業奉仕論となりました。彼の職業奉仕論は、現代にも通用する商売繁盛・経済発展の基本理念と同じであると考えられます。

当時の経済社会の思想的背景は、「我」の利己心や利潤の追求を肯定し、それを律する倫理は「個人」の良心に頼り、善行や相互の愛情は経済の発展に不要と考えられていたようですが、1902年シェルドンは、自らの企業理念を He Profits Most Who Serves Best に凝縮して表現し、黄金律の実践である「奉仕」という愛の世界を置いています。これが全地球上万人の心に共感を呼び起こし、ロータリーの発展に寄与したのではなかったでしょうか。また、今日失われている、当時の宗教的な資本主義精神に替わり得る強い支柱としての意義が現代にも生きています。

その時代、これらの思想の礎となるプロテスタンティズムは、英米という狭い局地で流布したにすぎず、カトリックの支配する国や他の宗教の国では通用しなかったことでしょう。また、「信ずるもの」は人それぞれです。彼が「神」という言葉を使ったのは晩年だけだったと教えられていますが、ロータリーの宗教を超える展開のために、あえて「神」という言葉を避けた、と考えるのは無理でしょうか。しかし彼のこのモットーに至る考えを、



アーサー F. シェルドン

マックス・ウェーバーの1904～05年の著作『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』と結びつける解説には、両者の発表年代から見ても疑問を感じていません。

【II】 混乱を招いたさらなる原因

1 職業奉仕に関する声明

混乱の流れに棹さしているのは、1987～88年度 R I の発表した新方針「職業奉仕に関する声明」です。そこには、職業奉仕の理念のなかの条項に、「自己の職業上の手腕を社会の問題やニーズに役立てること」と定義したうえで、「職業奉仕はクラブとクラブ会員両方の責務である」「クラブは職業奉仕を実践し、模範となる実例を示せ。会員が職業上の手腕を発揮できるプロジェクトを開発せよ……」と述べています。

ここが、職業奉仕という I serve の奉仕を、職業のない（企業ではない）クラブが We serve で行えとは！と皮相的で短絡的な論議の的となったところです。

ロータリー哲学の基盤にあり、不易なるものである「職業奉仕」は、流行の中にあってこそ耀きます。不易なる「理念」は、時代に即した新しい手段、すなわち、2014年度においては C L P（クラブリーダーシッププラン）の方法論によって生かしていかなければならないと思います。日本の伝統的なロータリー文化を堅持し、世界のロータリー文化をリードするためにも必要であり、そして具体的な実行は、クラブ細則の改正が必須です。

2 職業奉仕理念と職業奉仕活動

C L P の考え方によって、整合性の理論付けを試みたいと思います。この時、「理念・哲学」とその実践方法である「活動」を分けて考えないと混乱します。

五大奉仕は「ロータリーの目的」を実践するにあつ

四つのテスト (The 4-way Test)

言行はこれに照らしてから

1. 真実か どうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるか どうか

での理念すなわち「心」であり、考え方には五通りの道筋があって、それを容れる「姿」(相)である委員会が構成され、その活動すなわち「行動」があります。CLPによればその活動を「奉仕プロジェクト」と呼び、委員会名は五大奉仕の名称にかかわらず、活動の内容を表す名称を付けることとなります。

2007年版『手続要覧』までは、およそ次のような活動が提唱されていました。今なお、多くのクラブが実践しているところです。

職業分類談話・会員事業所見学・職業奉仕討論。職業奉仕活動表彰。青少年就職相談・職業指導。ロータリーボランティア。趣味職業別親睦活動。空席職業分類充填増強。

職業奉仕月間中推奨クラブ活動としては：

地区レベルでのロータリーボランティアの表彰。親睦活動への参加推進。職業奉仕活動や事業(プロジェクト)の提唱。職業分類空席への会員増強。

クラブの職業奉仕委員会は、今まで説かれてきた職業奉仕論との整合性が理解できないまま、「形だけ」を猿まねして、職業奉仕月間には、永年勤続従業員表彰・職場訪問例会開催・無料相談室などを主宰。職業奉仕卓話を地区委員会などに依頼。

これらで事足りるとし、その「心」を失ってミイラのように形骸化しているのが実情ではないでしょうか。いろいろなクラブでの事例から、これに魂をよみがえらす方法を考えてみたいと思います。

3 CLPに整合性を求めて

従業員表彰は、「四つのテスト委員会」の主宰とし、永年勤続に加え四つのテストの心に沿った勤務成果によって会員の推薦を求め、表彰をする例会では、会長あいさつや卓話などで四つのテストについて語るような内容とすれば、会員に四つのテストの理解を深めこの精神を社会に普及させる、立派な職業奉仕プロジェクトにな

るでしょう。

職場例会・会員事業所見学例会は；異業種交流として生かすことができます。信頼できていつも会うことのできる仲間同士の集まりであるロータリーほど、良い異業種交流の場はないでしょう。職員には毎週例会に行く意義として、事業繁栄のためにあるロータリーの一面を見せるまたとない機会です。

青少年就職相談・職業指導は；現今、青少年育成プログラムとして盛んに行われるようになりました。ロータリアンが学校へ出向いて、その職業を語る出前教室や、生徒の職場体験入社受け入れが相当します。この事業の担当は、「青少年育成委員会」とでも命名されることでしょう。これらの奉仕活動は、自分自身の職業にとっても、未来の仲間予備軍を獲得するためにも、広報の意味でも有益です。

ロータリーボランティアについては；例えば、多数の外国人労働者が移住している地域で、医療や法的問題に困っているとき、会員の医師や弁護士によって、救済プロジェクトの企画が立案されたとします。この事業で、会員の医師や弁護士が奉仕活動をするためには、通訳や看護師なども必要です。会員として在籍していなければロータリーボランティアとして募らなければなりません。この奉仕プロジェクトを主宰する委員会名は、「外国人労働者支援委員会」とでもなるのでしょうか。

ロータリー親睦活動は；友情と親睦を深めるために職業的またはリクリエーション活動を遂行するための会計士/公認会計士、内科医、金融/銀行業、ワイン、囲碁などのグループとして生かされています。

職業分類談話は；自分に与えられた職業分類を中心に、生い立ちや職業での成功談を語り、わが職業の他の会員への利用を促すことは異業種交流の出発点であり、奉仕活動で自分はどんなことに役立つかを知ってもらうためにも大切です。新会員に、職業についての卓話の機会を早い時期に割り振るのは、プログラム委員会の仕事でしょう。

職業奉仕討論は；クラブフォーラムで、どんな職業奉仕プロジェクトにニーズがあるか広く会員の意見を聞くことも必要でしょう。

空席職業分類充填増強については；職業分類委員会から、空席の情報を増強委員会に提供する重要な共同活動があります。職業分類(理念)はロータリーを特徴付ける大切な考え方ですが、その結果としてできた職業分類表を会員に配布しているクラブはたくさんあるでしょうか？ 新入会審査には、職業分類委員会(係)の了承が必要^{なおざり}です。推薦者の責務とともに、最近等閑になってい

るようです。

職業分類についてロータリーの創始者、ポール・ハリスの言葉があります。「もしロータリーが完璧の域に達することができるとしたら、私たちはこの世にあるすべての事業および専門職務を代表する人々を集めたクラブをつくることになる」

例示したようにして、実際に今まで行ってきた奉仕活動を、ちょっと視点を変えれば理論的整合性が得られ、「不易なる職業奉仕理念」を「最新の手法CLP」によって生かすことができるのではないのでしょうか。

[III] 職業奉仕の定義

1 ロータリーの目的

ロータリアンは何を信じ、何をなすべきか。これを示すのは、「ロータリーの目的 (The Object of Rotary)」です。ロータリーは、この実践のためにある組織です。

主文：「ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある」

原文は…as a basis of worthy enterprise…であり、enterprise は「意義ある事業」と訳されていますが、大仕事・企業経営・企業心などの意味を含んでいます。すなわち「企業理念の礎は奉仕の理念」と読み解くことができます。

上野孝PGの言われるように、意義ある事業の「の」が、「を」であったらどうでしょうか。これが「の」であることに大きな意義があり、「を」であったなら、「企業収益の社会還元を旨とすべし」と読み解くことができるように、ロータリーの根本的な哲学とは全く違う意味になってしまうと説かれています。

ロータリーの目的の主文が示すように、「個々の職業において、理想とする奉仕の理念を実践すること」が職業奉仕の定義でもあると思います。

2 奉仕の理念 (理想) Ideal of Service

英語の Service は日本語の「奉仕」の意味と、歴史的に形成された概念が違いますが、RIの『Official Directory』に記載されていた「Ideal of Service の解釈がロータリーにおける奉仕 (Service) の定義」になるのではないのでしょうか。

Rotary clubs everywhere have one basic ideal – the “Ideal of Service”, which is thoughtfulness of and helpfulness to others.

公式訳がないので、私訳を試みます。

「理想的な奉仕のあり方は、対する人の求めるところをよく察し理解し、そして思いやりの手を差し伸べ

ロータリーの行動規範 (Rotary Code of Conduct)

ロータリアンとして、私は以下のように行動する。

- 1) 個人として、また事業において、高潔さと高い倫理基準をもって行動する。
- 2) 取引のすべてにおいて公正に努め、相手とその職業に対して尊重の念をもって接する。
- 3) 自分の職業スキルを生かして、若い人びとを導き、特別なニーズを抱える人びとを助け、地域社会や世界中の人びとの生活の質を高める。
- 4) ロータリーやほかのロータリアンの評判を落とすような言動は避ける。
- 5) 事業や職業における特典を、ほかのロータリアンに求めない。

ること」

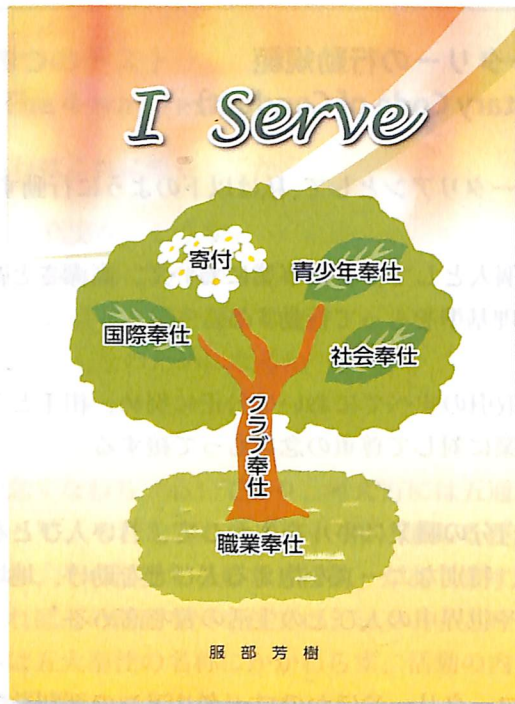
この奉仕のあり方は、職業奉仕のあり方そのものでもあります。それはまず、「相手の心を視ることから、耳を傾けて聴くことから」出発します。

客は何を望んでいるのだろうか？ ディズニーランドの従業員教育 Hospitality mind の第一歩にも通じます。いま盛んに言われている「おもてなし」、相手の心を素早く察し、わが身ならばいかにしてほしいか？ と考えて行動する、職業奉仕の理念がこめられているように思います。この「理念」の実践は、企業の長にあっては、法律 Compliance を、従業員にとっては、作業手順 Manual を、超えたところにあります。

3 二つのモットー

1910、11、13年には、シェルドンによって、職業奉仕の理念が説かれ、その神髄は決議 23 - 34 にも記載され、今日なお、「不易なるロータリーの原点」として語り継がれています。

決議 23 - 34 は、ロータリーの目的の実践指針ですが、なかんずく、「ロータリーは一つの人生哲学である……」と述べ、二つのモットーを示して職業奉仕を説いたその第 1 項は、ロータリーの心を語る哲学であると、



2010年度規定審議会においても、世界中のロータリアンが絶対多数の賛同を寄せて認めています。

「最もよく奉仕する者、最も多く報られる」 He Profits Most Who Serves Best は、1902年にシェルドンによって、販売学の教科書に書かれたセールス成功の論理でした（現在は He が One に変更されています）。

したがって「報い」Profitの原意は、実利実益である金銭的な「報酬」の意味と解釈されます。しかし、シェルドンの、1921年「奉仕の哲学」のなかには、精神的な「報いを無視してはいなかった」と解される一節があります。そしてこの実生活上の倫理にかな適った原則を基礎として、超我の奉仕 Service above Self が成立しています。

「利他の心をもってすれば、利おの自おのずから己かえに還る。奉仕は我執を超えて無心であれ」と読み解くことができるのではないのでしょうか。

シェルドンの職業奉仕理論発想の原点は、商売繁盛・経済発展の基本理念と同じで、現在も身近な日々の生業の中にあって至極納得できる考え方であると思います。そして今この理論は小船井修一PGの説かれるように、顧客満足で終わらず、それ以上に予想外の嬉しい感動をもたらす Customer's Delight に発展しています。

ロータリーのあらゆる奉仕活動は、ロータリアンの才能と手腕、職業の繁栄によって得られた社会的地位や経済力によって花開いています。言い換えれば、あらゆる奉仕活動も寄付も、職業繁栄を願う職業奉仕の「根」の上に茂る枝葉や開く花です。

職業の繁栄なくしてロータリアンの奉仕なし。

4 四つのテスト

この仕事は幸せをもたらすだろうか？ 客も・仕入れ先も・下請けも・従業員にも・家族にも周りのみんなに、笑顔の輪が広がるだろうか。四つのテストは、職業奉仕の座右の銘です。職業の倫理だけでなく、「物事の判断」の基準としてもその尺度となり、また、人間関係の和を良好に保つための指針であるとも、四辻でどちらへ行けばよいのか迷った時、進路を定めるための指針であるとも言われています。

四つのテストは、ばらばらにして、一つひとつ決めつけるように追求したり分析したりせず「四つひとつくermにふんわりと考えればよい」と伝えられています。

[IV] I serve の究極にあるもの

決議 23 - 34 に従って考えれば、個々の力を結集して活動する、クラブ・社会・国際・青少年奉仕はすべて自己研鑽けんさんのためにあり、I serve の精神を磨くためにあります。

「力つとむるところは向上奉仕」と歌っているように、あらゆる奉仕活動は人間性向上の修練のためにあり、修行の結果を世に問うことが職業奉仕ではないのでしょうか。

「奉仕の理想に集いし友よ、御国ごくにに捧げん我らの業」理想とする奉仕の理念の実践を志して、心ひとつに集まる友よ、我らの生業を日本の社会に役立てよう。「ロータリーの目的」を実践するための組織であるロータリーの礎石は職業奉仕であり、それは究極の I Serve ではないのでしょうか。

結び

言うまでもなく、日々のロータリーは学問ではありません。しかし、「私はロータリアンである」と胸を張って言える資格は？ と問われたら何と答えますか。職業奉仕の理念やその理論的根拠について説明できる知識が要求されることでしょう。

さて今後の問題として、ここに述べた職業奉仕の概念は、いわば「人と人との対面において、手で数えることのできる金銭」とでもいった世界のなかで通用するものであり、現代の経済社会、金融資本・株式市場・法人などの「人ではない者」が介在する世界での対処はどう考えていくのか？ 日本のロータリー文化が誇る職業奉仕の哲学が未来永劫えいじ耀くように、諸賢の叡智を期待します。

筆者著書『I Serve』2014年より抜粋

職業奉仕入門

「職業奉仕」という概念

「ロータリーの目的」は、ロータリーの存在目的とロータリアンの責務について記した哲学的な声明です。職業奉仕は、「目的」の第2項を土台としており、この項で、ロータリアンは次のことを奨励し、育むことが求められています。

- 職業上の高い倫理基準
- 役立つ仕事はすべて価値あるものという認識
- 社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものとする

職業奉仕はどのように実践できるでしょうか。以下にいくつかの方法をご紹介します。

- 例会で、各会員が自分の職業について話し、互いの職業について学び合う。
- 地域社会での奉仕プロジェクトで職業スキルを生かす。
- 高潔の精神で仕事に取り組み、言動を通じて模範を示すことで倫理的な行動を周囲に促す。
- 若者のキャリア目標を支援する。
- 専門能力の開発を奨励し、指導する。

職業奉仕に意欲と熱意を感じる人にとって、ロータリーほどその実践にふさわしい場はありません。職業奉仕はロータリーの神髄であり、ロータリーをほかの団体と分かつ要素でもあります。

高潔性と倫理

高い倫理基準の実践を通じて高潔性を推進することは、ロータリアンとして不可欠の要素です。その中で生まれたのが、「四つのテスト」と「ロータリーの行動規範」の2つであり、職場や生活のあらゆる場面で倫理的行動を実践するための指針となっています。

職場で高い倫理基準を推進するために

事業や専門職務のリーダーであるロータリアンは、従業員、同僚、地域社会全体に対して模範を示し、高い倫理基準を推進することのできる立場にあります。仕事に関連したあらゆる交流は、倫理的な行動を奨励する機会となります。ロータリアンは、日々の仕事において倫理を実践し、奨励することができます。

- 従業員の雇用や研修において、誠意、責任、公平さ、尊重について説明し、その重要性を強調する。
- 仕事仲間による模範的な行動を称え、奨励する。
- 顧客、業者、仕事関係者と接する際は、高い倫理基準を遂行し、思いやりと熟慮をもって行動する。

企業の社会的責任とロータリー

企業の社会的責任（CSR）は、事業が行われる地域社会と環境に対して、企業が責任を持つことを意味しています。持続可能な開発のための世界経済人会議（WB C S D）は、CSRの定義を、「倫理的に行動し、経済開発に寄与すると同時に、労働者とその家族、ひいては地域社会と社会全体における生活の質を改善するために、企業が継続的に取り組むこと」としています。社会倫理について2012年に発行されたある記事によると、現在、CSRには次のような明確な傾向があることがわかっています。

1. 企業の事業分野と関連した寄付を行う：企業の慈善活動を、事業内容と関連した社会問題に向ける。
2. 企業が後援するボランティア・プログラムに従業員が参加する：仕事へのやる気を高め、企業が持つ社会的価値観を従業員と共有する。
3. 企業の社会的価値観とコミットメントを伝える：ソーシャルメディアやその他の方法を活用する。

ロータリー章典の第26.020.1項には、高潔性とCSRを重んじるロータリー組織の観点が説明されています。

- ロータリーは創設当初より、事業と専門職における高潔性を土台とする理念を築いてきた。ロータリークラブおよび個々のロータリアンは、職業奉仕に献身し、すべての取引において高い倫理基準を守るよう尽力する。これらのことは、ロータリーの目的（綱領）、中核的価値観（奉仕、親睦、多様性、高潔性、リーダーシップ）、四つのテスト、およびロータリーの行動規範にて要約され、世界各地で活動するロータリークラブおよびロータリアンによって実行されるものである。
- また、法人組織である国際ロータリーは、管理統括の透明性、財源および財務状況の適切な管理、および公正な労働慣行に対する献身をもって、組織の社会的責任に尽くすものである。

国際ロータリー『職業奉仕入門』255-JA-(313)より抜粋

農業を通じた私の人生

鹿屋西RC 櫛山 時美

誇りを持って頑張っています

鹿児島県鹿屋市は、九州南東部の大隅半島に位置しています。大隅半島にはロケット打ち上げで有名な内之浦や九州最南端の佐多岬があり、鹿児島湾（錦江湾）にそびえる桜島の噴火で年に数回、火山灰が雨のように降るため、土地はミネラル豊富な火山灰土壌です。そしてその中心にある鹿屋には、水がきれいで登山も楽しめる^{たかくま}高隈山や映画「永遠の0」のロケ地となった海上自衛隊鹿屋航空基地があります。この夏には、地元、鹿屋中央高校が大隅半島で初の全国高校野球選手権大会出場を果たしました。

このように活気あふれる環境のもと、私はミネラル豊富で雄大な土壌で、ニンジン、ゴボウ、ダイコン、サツマイモ、レタス、キャベツを生産しています。

私の仕事は農業。決して美しくきれいな仕事ではありませんが、誇りを持って頑張っています。目標は南九州一のニンジンとゴボウの生産農家になること。ここには一言では表せないドラマがあります。

私は30年余り野菜に携わる仕事をしてきました。4年前、農家として独立を考えていた時に、ある大手の加工業者が私のところに来て「うちにニンジン、ゴボウ、出荷してくれるんやったら、なんぼでも協力しますで〜」、「資金の方もなんぼでも出しますで〜」と教えてくださいました。その瞬間、神様が私の前に降りてきたようで、「私の人生、これからだ!」と思いました。その

ことを息子に伝えると、「お母さん、もし資金を出してもらって会社をつくったら、自分たちの理想とする農業はできないよ！ 大変だと思うよ！ よ〜く考えて」と言われました。

私はその時現実に戻り、今だけではなく10年先、20年先のことまで考えさせられました。そうです。息子の言った通り、「農業だったらできる。頑張れるかも」と思い、息子に「お母さんと二人で、業者から援助をもらわないで農業する?」と聞くと、「お母さんができると思うんだったら協力するよ！ 頑張るよ!」と返ってきました。「軌道に乗るまで給料も払えないかもしれないよ? それでもいいの?」と言うと、その時は少し悲しそうな顔でしたが「いいよ!」と言ってくれました。私一人では何もできなかったと思います。息子がいたからいろいろなことを考えさせられ、自分を見つめ直すことができたのです。まさに「負うた子に教えられて浅瀬を渡る」でした。

それから、信頼できる業者との出会いがありました。関東に本社を持つ業者です。関西の業者の販売が滞り出荷中止の連絡がきた時でも、「お願いします」の一声で、いくらでも農作物を引き取ってくれるのです。

冷凍キョーザ事件や野菜の残留農薬問題で、中国からの出荷が停止になり、ニンジン、ゴボウが足りなくなった時、私は市場への出荷を60%に抑え、長崎、熊本、島原、鹿児島^{えい}の額娃町、宮崎の小林、地元の根占^{ねしめ}、有明といった、九州の隅々でニンジンを作っている農家を

一軒一軒回ってニンジンを分けてもらい、輸入を中国に頼っていたために困っていた関東の加工業者に納めました。その時、価格はいくらでもよいですと言われましたが、私はいつもと変わらぬ価格で納めました。このようなやり取りをしているうちに、これらの業者と真の信頼関係で結ばれていきました。また、一生懸命な農家と認められ、生産はもちろん、販売の方も余裕が持てるようになりました。現在では、ニンジンは11月から6月まで栽培方法や品種を変え、ゴボウは7月から10月まで作付け方法を工夫し、年間を通して出荷を安定させています。ま



た、社員の福利厚生面での充実を図るために、昨年11月に株式会社化も果たしました。しかし今後どのような状況になるかわかりません。決して油断をしてはいけないと思っています。

一般家庭の食卓でニンジン、ゴボウ、ダイコンなど、一本を切って料理することが少なくなっているのは、毎年の統計からわかっています。私が野菜にかかわる仕事を始めた30年ほど前は、新鮮な野菜が八百屋さんに並んでいました。次第にスーパーなどが増えてきて、野菜も大量に生産するようになり、私も時代に乗るため、一生懸命頑張りました。

20年ほど前から、日本の企業が中国に会社を起こして農園をつくり、賃金の安い中国の人々を使って生産コストを下げて作られた中国産の野菜が出回るようになりました。今では中国の人たちは、日本の機械をまねてつくり、技術を身に付けています。中国は人口増加などにより日本への輸出も減少し、価格も日本と変わらなくなっています。

4年前、6町歩の畑から始めて……

近年、日本の生産と消費のバランスが確立したと思っていた矢先、また輸入に頼らざるを得ない状況になりました。東日本大震災の影響で、日本の耕作面積が減ったのです。ニュージーランド、台湾の農作物が格安で入ってきます。私はおいしく安全な野菜であればよいと思っています。しかし、東北の農業が復興するまで、日本の残された農家が頑張るしかない、今は強く思っています。

私は息子に常々「今の若い青年たちが夢を持って農業をしたいと思えるようなカッコイイ農業をなさい」と言っています。

農業は楽しいです。なぜか。作った物がきれいでおいしくて、たくさん取れて、買ってくれる人に喜んでもらえる。次に収入が付いてきます。逆においしくなくて、収穫が少ないと最悪です。収入もついてきません。私が息子に口頃から強く言っているのは、早めの管理作業。何でも時期とタイミングが大切です。

一般の農家は毎日コツコツ、こまめに作業をしています。しかし労力は決まっています。私は時期とタイミングが今だとすれば、除草作業でも収穫作業でも人数を



かけて2～3町歩（1町歩＝3,000坪）くらいの作業も1週間くらいで終わらせてしまいます。最近では近所の農家が「サトイモのマルチ（農業用ビニールシート）を張ってください」「イモのマルチを張ってください」と頼みに来ます。私は自分のところも忙しいのですが、「ハイ、ハイ、いいですよ!」と、すぐに軽く返事をしてしまいます。それは奉仕の気持ちと、長く会社を続けて行く上で、お互いさまの精神からくるものだと思います。私が人助けをしていれば、必ず次の世代の人たちがみんなに助けられると思っています。

私がこの仕事を始めた4年前、畑の作付面積は6町歩から始めました。2年目に15町歩、3年目に30町歩、4年目、現在では50町歩です。50町歩といっても見当がつかないと思いますが、東京ドームの約38.5倍の広さです。その畑を一年間でほぼ2作しているため、延べ100町歩の畑を管理しています。畑にもいろいろな畑があります。家畜の糞の捨て場だった畑、石が出てくる畑、何を作っても良い物ができない畑。作ってみないと、どのような作物に適している畑かわかりません。私は、「この畑はダメだから借りません。返します」と言ったことは一回もありません。ダメな畑は良い畑に変えていく。それが私の仕事だと思っています。この先どのように変わっていくかはわかりませんが、露地野菜、根菜類は土がないと作れません。人間が生きていく上で必要です。

病院の先生は、病んでいる人を治します。私は病まないような食を考え、作り、農業を支えていきたいと思っています。

現在では50年前と比べ、野菜の栄養価が約半分に落



ちていると言われています。あまりにも化学肥料に頼り過ぎているからです。私たちもそれに気付いています。なぜなら、見た目中心の生活、食生活になったからです。何とかしなければと今、減農薬、有機農法に取り組んでいます。

最近、お得意さまから「どこを切っても赤いニンジンがほしい」という難しい注文がありました。普通のニンジンとは違う付加価値を付けて販売したいからだと思います。どこを切っても赤いニンジンは、作付け時期が違えばとあまり大きくならないし、腐りやすいのです。しかし、これこそが今後の私の課題となりそうです。

今、農業を生涯の職業として頑張りたいという人がいたら、経営のノウハウ、私が知っている限りを教え農業法人の会社をつくる指導をし、お手伝いをしています。自給自足の時代がこようと、日本の大地を使用し四季ある日本の恵まれた気候に感謝し、農業を愛する仲間を増やしていきたいと思っています。

私の頭の中はいつでも農業。多分私の趣味は仕事、農業なのかもしれません。

国際大会で海外視察

昨年、リスボンで行われたロータリー国際大会に参加し、スペイン、ポルトガルを旅行しました。世界のロータリアンと触れ合えたことはもちろん、農業に関することをたくさん学びました。自分の足で私は何かを学び、どこかに隠されたヒントを見つけ、生きて行く道しるべに、と一つひとつを新鮮な気持ちで見つて歩き、感じました。

今年の国際大会にも参加し、シドニーでもスーパーの野菜売り場を丹念に観察しました。見たことのない数々の野菜を目にして「私でも作れそうだなあ」とか、「私の作った野菜もここで売れるかも」とかいろいろ想像してみました。そして「見た目」「売れる工夫」「買いたくなる工夫」「買っていただく演出」について、あらためて考えさせられました。オーストラリアでは、野菜の原形で販売される分には消費税がかかりませんが、食べやすいようにカットされた野菜には消費税がかかるそうです。私は「なるほど」と納得しました。

どこに行っても自分の農業に何かを結びつけ、ノウハウを考えます。農業は今、作るだけの農業では成り立ちません。国内であれ、海外であれ、販売ルート（販路）をしっかりと見つけなければならない時代なのです。世界の目から見ても安心できる野菜作りを続けていけるよう、頑張っていきたいと思っています。

私は農業以外は未熟者です。自分磨きのために、とロータリークラブに入会させていただきました。岩手県の陸前高田ロータリークラブ（RC）50周年記念式典でお会いした富岡RC（群馬県）の皆さま、国際大会でお会いした皆さま、ぜひ遊びにおいでとってくださった心からのお気遣い。頑張れと言われた心にしみる優しさ。早く日本の、そして世界のロータリアンに少しでも近づけるよう、年を重ねていきたいです。皆さまとご一緒させていただいて学ぶことが多いです。私は自分のできる限り、農業という職業を通じて、真実に公平に好意と友情を深め、みんなのために奉仕します。

（第2730地区 鹿児島県 蔬菜栽培）